

外来診療に際して思うこと

北海道大学医師会
北海道大学病院 内科Ⅱ

柳谷 真悟

「ねえ先生、ちょっと聞いてよ～」

私は糖尿病、甲状腺などの内分泌の疾患を専門としている。週3回、外来での仕事をしている。私の外来の診療の際に、予約の患者様からいろいろなお話を聞かせていただくことが多い。お孫さんのお話、他の病院で診察を受けている病気のお話、旅行に出かけたお話などなど。外来の仕事をしているとついついお話に聞き入ってしまう。

時として、診させていただいている疾患とは別の症状を訴える方もいらっしゃる。その際には十分にお話をうかがった上で、アドバイスをさせていただいたり、その日のうちに検査を追加することもある。別の疾患が見つかることも多くあり、思いがけずこちらが驚いてしまうこともある。それゆえ、診察の際にはできるだけ患者様のお話は遮ることなく、耳を傾けるようにしている。

私が病院を移らなければならぬ時、患者様が泣いて悲しまれたこともあった。医師として冥利に尽きることだが、一方で悲しませてしまった申し訳のなさも同時に感じてしまう。

患者様から感謝、要望や激励の様々なお言葉をかけていただいた。患者様が医師としての私を育てていただき、精神的にも強くしていただいたのかもしれない。

少しでも患者様のお役に立てていると感じたら、やはりこちらも嬉しくなる。外来の仕事は大変だが、決して嫌いにはなれない。

医師としての人生はこれからも多くの困難が待ち受けるだろう。だが、病気のつらさや大変さに比べたら大したことではない。これからも患者様にしっかりと向き合い、診療にあたらせていただきたいと思っている。

夏休みの記憶

旭川市医師会
森産科婦人科病院

日高 康弘

7月から8月にかけては子供の頃の記憶が蘇るイベントが続く。8月6日、9日の広島、長崎の原爆記念日、そして8月15日の終戦記念日。テレビではこの時期戦争を振り返る番組が続き、終戦記念日生まれの母の誕生日に近いことを思い出す。

子供の頃、お盆は毎年、母の田舎の福島県いわき市で過ごした。常磐道がまだ開通していなかったため、埼玉から国道6号を父の運転で6時間くらいかけて行った。カーラジオで高校野球の熱戦を聞きながら、小学校低学年頃までは車酔いしやすく、吐いたり横になったりして車での移動は憂鬱だった。祖父母は山の上に住む農家で、にわとりを数羽飼っていて、朝起きてすぐにわとり小屋へ玉子を採りにいくのが楽しみだった。産みたての温かい玉子が2～3個あり、朝は産みたて玉子かけご飯を食べた。家は山の上だが、海が近く四倉海岸や波立海岸へ海水浴にも行った。叔父が岩場でウニを採ってきて海水で洗って食べさせてくれた。蛤を買って帰り、貝殻にウニの身を乗せて貝焼きもした。味の記憶はあまりないが、臭みがなくうまかったと思う（今も昔もウニは採ってはいけないと思うが）。貝焼きが福島名物であることは大人になってから知った。4年前、母を連れていわきへ行く機会があったが、東日本大震災の影響で、海岸沿いの風景はかなり変わってしまっていた。19歳で大学受験浪人をしていた年も、両親といわきへ行った。

8月12日の夕方、埼玉を出た。羽田から伊丹へ向かう日航機が消息を絶ったとカーラジオから流れた。いわきに到着して夜中まで日航機消息不明のニュースを見ていた。坂本九さんほか複数の著名人が亡くなった。4人が生存したが、当時12歳の川上慶子さんが自衛隊のヘリに救助される光景は衝撃的だった。

夏休みが終わりに近づくと、今も続いているが日本テレビで24時間テレビがある。昔は萩本欽一さんが司会をしていた。高校生の時、友人たちと夜、日本武道館で募金し、朝まで都内をうろついていた。

小学生の頃、夏休みの宿題になかなか手を付けられず、毎年仕上がるのは30日か31日だった。仕事の着手が遅く期限ギリギリまでかかるのは今も変わらぬ悪い習慣だ。この原稿は子供たちの夏休み終わりに書いており、次週から新学期。昼近くまで寝ていた子供たちに朝食を食べさせ学校に送り出す慌ただしい朝がまた始まる。